

## 「広島学生音楽連盟」を追いかけて

能登原 由美

### ・「広島学生音楽連盟」との出会い

「広島学生音楽連盟」一。被爆直後の広島で、音楽を通じて復興に奔走する若者たちがいた。活動期間は僅か4年足らずと短く、関係者以外にその存在を知る人は今ではほとんどいない。被爆から70年近くもたち、その関係者さえ、すでに失われつつある。私がある存在を幸運にも知ることになったのは、2009年の春。当代表を務めていた「ヒロシマと音楽」委員会が行なう「広島音楽史」記録・編纂プロジェクトの一環として、委員会古参の才木幹夫さんの強い勧めにより、当時の関係者から話を聞く機会を得たのが始まりであった。

戦後生まれの私にとって、戦争と原爆投下の事実は遠い。広島市内で通った小中高校時代には、「平和学習」をそれなりに受けている。そのため、他県で育った人たちよりも原爆投下に関する知識は少しだけ多いかもしれない。けれども、その多くは壮絶な被害状況についてであり、復興の様子、それも建物の復興ではなく市井の人々がどのようにして希望を取り戻していったのかという「心の復興」については、あまり知る機会をもたなかった。

そんな私が「広島学生音楽連盟」の話を聞くうち、なぜか希望がわいてきた。彼らの話の中にはつねに、死と直面した地獄の記憶が入り交じる。だからこそ、音楽や異性とのつきあいを通してときめきを取り戻したことを、少年少女の当時のままに語る姿に初めはとまどいもした。被爆直後の生活はむごく、悲惨で触れたくない記憶、私自身がそう思い込んでいたからかもしれない。もちろん、彼らの中にはまだ人には話せない部分も数多くある。けれども、決してそれだけではない。廃墟の上でさえ、現代の若者たちと同じように、何かに夢中になったり、羽目を外したり、恋をしたり…。音楽も恋も、それだけでは家を建てることも空腹を満たすこともできないが、前へ進んでいくためのエネルギーになっている、それが私には驚きであった。

そのうち、こうした彼らの活動の記録を「いま、ここ」につなげるべきだとの思いが募り、当時の彼らと同世代の若者たちによる合同合唱のコンサートを企画することになった。市内3つの高校の合唱部による合同合唱団、その内訳は男子校1校と女子校2校、つまり、通常は男声か女声という同声の合唱曲しか歌えない生徒たちによる、混声の合同合唱団を結成してのコンサートである。この状況はまさに、「広島学生音楽連盟」と同じものであった。共学の学校がまだ珍しかった当時、学生たちは通常、同声合唱曲のみを歌うが、合同合唱に参加することにより混声を歌うことができたのである。混声合唱曲を歌うという新たな音楽の喜びに加え、新たな人々につながる喜び、

とりわけ異性に接するという別の日常の喜びを、多感な若者はどのように受け止めるだろうか。一方で、被爆直後の若者たちの日常には、つねに戦争と原爆による傷跡が見え隠れする。その傷跡を、同世代の現代の若者はどう受け止めるだろう。コンサートを企画しながら、こうした思いが頭をよぎっていた。

それから数年にわたり、「広島学生音楽連盟」の活動を追いかけることになった。ドキュメンタリー映画作家としてすでに大きな評価を得ながら、現在も生まれ故郷の広島で創作を続ける青原さとしさんに、撮影と映像の構成をお願いする。当初はコンサートで上映するための短編にとどめるつもりであったが、彼らの姿を追ううちに、また今の若者たちの姿を追ううちに、いつの間にか1時間程度のドキュメンタリー作品として製作することになった。

### ・映画の完成後に始まった新たな出会いとつながり

映画は最初の出会いから4年後の、2013年7月に完成した。翌8月には、広島市西区の横川シネマで2週間ほど一般上映された。猛暑の中、映画完成を知らせる新聞記事を見て駆けつけてくれたメンバーや関係者が何人もいたのが本当に嬉しかった。当時の17歳も今は80歳を超えている。真夏の炎天下にも関わらず、旧友にわざわざ連絡を取り一緒に来てくれた人もいたという。だが何よりも嬉しかったのは、この上映をきっかけに、「広島学生音楽連盟」の新たなつながりを見つけたことだ。

上映後、「広島学生音楽連盟」に参加して歌ったという人々から連絡が入る。すなわち、広島女子専門学校の学生だった牧野サヨ子さん、鈴峯女子専門学校の学生だった金子昭代さん。さらに、牧野さんを通じて寺延暢子さんにもお会いすることができた。

この新たなつながりを通じて、「広島学生音楽連盟」の詳細が少しずつ明らかとなった。また、写真やプログラムなどの当時の資料が数多く保管されていることも判明した。一方で、こうした新たな証言と資料の発見は同時に、映画の製作時に私たちが捉えていた「広島学生音楽連盟」の姿が、少し異なっていることを気づかせることになった。あるいは、映画の中の証言自体にも多少の記憶違いがみられることが明らかとなってきた。

よって、この場を借りて、「広島学生音楽連盟」について現時点までに明らかとなった部分を改めて記録しておきたい。ただし、今後新たに見つかるかもしれない証言者や資料によりこれらの記録にも間違いが見つかるかもしれない。けれども、眠った記憶を呼び覚ます時には少なからず伴う齟齬として、また記憶自体を探し出す労苦に免じて、その点をご容赦いただければと思う。